

# 社会福祉法人 陽光福社会定款

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 この社会福祉法人(以下「法人」という。)は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

### 第二種社会福祉事業

#### 幼保連携型認定こども園

こども園・ひかりのこ さっぽろ の設置経営

認定こども園・ひかりのこ いしかり の設置経営

一時預り事業 (こども園・ひかりのこ さっぽろ)

一時預り事業 (認定こども園・ひかりのこ いしかり)

地域子育て支援拠点事業 (こども園・ひかりのこ さっぽろ)

地域子育て支援拠点事業 (認定こども園・ひかりのこ いしかり)

### (名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人陽光福社会という。

### (経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

### (事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を北海道札幌市豊平区月寒東4条9丁目1番11号に置く。

## 第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員を7名置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、3名の委員で構成する。ただし、外部委員1名以上を含むものとする。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は委員の報酬を含め、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して、一人当たりの各年度の総額が120,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

### 第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

2 評議員会に議長を置き、その都度評議員の互選で定める。

(権 限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開 催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招 集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決 議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わな

なければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員(当該事項について議決に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び評議員会において選任した評議員2名は、前項の議事録に記名押印する。

## 第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名
  - (2) 監事 2名
- 2 理事のうち1名を理事長とする。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 理事長は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成す

る。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

#### (役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

#### (役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

#### (役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

#### (責任免除)

第22条 理事又は監事が任務を怠ったことによって生じた損害について社会福祉法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、社会福祉法第45条の20第4項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第113条第1項の規定により免除することができる額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

#### (職員)

第23条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長(以下「施設長」という。)は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長以外の職員は、理事長が任免する。

## 第五章 理事会

(構成)

第24条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第25条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長の選定及び解職

(招集)

第26条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第27条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事(当該事項について議決に加わることができる者に限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき(監事が当該提案について異議を述べたときを除く。)は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第28条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。ただし、理事長が欠席した場合は、理事長に代わり出席した理事が記名押印する。

## 第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第29条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の2種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 現金 1,000,000円
- (2) 建物 北海道札幌市豊平区月寒東4条9丁目1番地7号所在  
鉄骨造陸屋根地下1階付2階建 こども園・ひかりのこ さっぽろ 園舎1棟  
(延面積1,193.60㎡)
- (3) 建物 北海道石狩市花川南4条3丁目4番地1、2番地所在  
鉄筋コンクリート造陸屋根3階建  
認定こども園・ひかりのこ いしかり 園舎1棟 (延面積1,132.68㎡)
- (4) 建物 北海道石狩市花川南4条3丁目4番地2、4番地1所在  
鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付3階建  
認定こども園・ひかりのこ いしかり 園舎1棟 (延面積905.76㎡)
- (5) 土地 北海道札幌市豊平区月寒東4条9丁目1番7  
こども園・ひかりのこ さっぽろ 敷地 850.00㎡
- (6) 土地 北海道札幌市豊平区月寒東4条9丁目1番5  
こども園・ひかりのこ さっぽろ 敷地 439.30㎡
- (7) 土地 北海道札幌市豊平区月寒東4条9丁目2番24  
こども園・ひかりのこ さっぽろ 駐車場用地 302.61㎡
- (8) 土地 北海道石狩市花川南4条3丁目1番2  
認定こども園・ひかりのこ いしかり 敷地 390.66㎡
- (9) 土地 北海道石狩市花川南4条3丁目4番2  
認定こども園・ひかりのこ いしかり 敷地 1,034.71㎡
- (10) 土地 北海道石狩市花川南4条3丁目2番  
認定こども園・ひかりのこ いしかり 敷地 845.38㎡
- (11) 土地 北海道石狩市花川南4条3丁目4番1  
認定こども園・ひかりのこ いしかり 敷地 1,847.22㎡

3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。

4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない

(基本財産の処分)

第30条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意

及び評議員会の承認を得て、札幌市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、札幌市長の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資(独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。)に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合(協調融資に係る担保に限る。)

#### (資産の管理)

第31条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

#### (事業計画及び収支予算)

第32条 この法人の事業計画書及び、収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

#### (事業報告及び決算)

第33条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
  - (2) 事業報告の附属明細書
  - (3) 貸借対照表
  - (4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)
  - (5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書
  - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
  - 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに



に、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第34条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第35条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第36条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

## 第7章 解散

(解散)

第37条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第38条 解散(合併又は破産による解散を除く。)した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

## 第8章 定款の変更

(定款の変更)

第39条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、札幌市長の認可(社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。)を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を札幌市長に届け出なければならない。

## 第9章 公告の方法その他

(公告の方法)

第40条 この法人の公告は、社会福祉法人陽光福祉会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は法人ホームページに掲載して行う。

(施行細則)

第41条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

1 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理 事 長      細 川 昭 一

常務理事      秦      紀 正

理    事      足 立 金 三

理    事      松 浦 陽 一

理    事      西 村 博 司

理    事      三 村 元 信

理 事 小 菅 義 郎

監 事 河 上 貞 房

監 事 大 上 誠 一

- 2 この定款は、平成29年4月1日から施行する。ただし、施行日以降に就任する評議員を施行日前に選任する場合は、第6条の例によらなければならない。
- 3 第5条の適用に当たり、施行日から起算して3年を経過する日までの間の定数は4名とする。

昭和58年	2月	7日	登記設立施行
昭和63年	5月	23日	変更決定通知
平成5年	3月	30日	変更決定通知
平成5年	10月	12日	変更決定通知
平成6年	10月	19日	変更決定通知
平成9年	3月	4日	変更決定通知
平成13年	3月	30日	変更決定通知
平成14年	7月	23日	変更決定通知
平成15年	12月	15日	変更決定通知
平成16年	4月	21日	変更決定通知
平成17年	3月	28日	変更決定通知
平成19年	8月	21日	変更決定通知
平成20年	6月	2日	変更決定通知
平成21年	3月	16日	変更決定通知
平成21年	7月	9日	変更決定通知
平成22年	7月	29日	変更決定通知
平成22年	11月	10日	変更決定通知
平成23年	5月	27日	変更決定通知
平成28年	6月	1日	変更決定通知
平成29年	1月	19日	変更決定通知
平成29年	7月	3日	変更決定通知
平成30年	2月	27日	変更決定通知

# 役員報酬等に関する規程

## 第 1 章 総 則

(目 的)

第1条 この規程は、社会福祉法人陽光福祉会（以下「法人」という。）の業務に従事する役員等の報酬、退任功労金、慶弔金及び法人業務に携わった時の旅費交通費など諸経費について必要な事項を定める。

(定 義)

第2条 この規程において役員等とは、法人の理事、監事、評議員、評議員選任解任委員をいう。

## 第 2 章 報 酬 等

(報 酬)

第3条 継続かつ定期的に就業する役員等の報酬は、個人の役割、職務内容を総合的に勘案・評価し、役員等報酬表に定める基準額を理事会にて決定し、各人に支給する。

- 1 常勤理事長の報酬については別表第 1 に定める基準による。  
通勤手当については職員給与規定第 15 条の規定に準ずる。
- 2 非常勤理事、監事の報酬は別表第 2 に定める基準による。
- 3 評議員の報酬は定款第 8 条の定める基準による。
- 4 評議員選任解任委員の報酬は評議員選任解任委員会運営規定第 9 条の定めによる。
- 5 常勤理事長に、前期法人決算において繰越余剰金（資金収支計算書における積立金への支出と当期収支差額の合計）を計上した場合には、前期（6 月）、後期（12 月）に別表第 1 に定める支給基準額の 5 % を役員賞与として支給することができる。

(報酬の支払方法)

第4条 報酬の支払いは、次のとおりとする。

- 1 第 3 条 1 項の役員等については、毎月 1 日に起算し、当月末日に

締めきり、その月の 25 日（当日が土・日曜日又は祝日の場合はその前日）に、年俸を 12 で除した額を金融機関の口座に振り込む方法により支払う。

- 2 第 3 条 2 項・3 項の役員等については、年度当初の 4 月を起算として 9 月中旬、翌年 3 月中旬の年間 2 回に分けて支払う。
- 3 報酬の支払額は、源泉所得税額を控除した額を支払う。
- 4 役員が月の途中に於ける就任、退任、解任、または死亡による退任の場合、月中に拘わらずその月分の報酬を支払う。

（当法人給与と職員給与の併給）

- 第 5 条 常勤理事長が施設長として就任している場合の俸給は職員の給与に関する規則に基づき施設人件費で支給し、その 50%を毎月末、法人本部会計より繰り入れる（本部では役員報酬にて計上）。
- 2 理事が施設の職員として在籍している場合の俸給は、施設で支給し、役員報酬は支給しない。

（費用弁償）

- 第 6 条 理事会・評議員会への出席・法人業務に携わった時に支出した通信費、物品輸送費、雑費等の諸経費は、その用途を明記した領収書等をもって実費を支給する。

### 第 3 章 出張旅費

（出張旅費）

- 第 7 条 出張旅費は原則として交通費、宿泊費、宿泊日当及びその他の費用とする。
- 2 交通費は鉄道賃、船賃、車賃、航空賃（急行料金、特急料金、指定席料金などを含む）に要した費用を支給する。
  - 3 宿泊費は宿泊に伴う室料、夕朝食費、付随する税及びサービス料とし、出張中の宿泊数に応じて支給する。
  - 4 宿泊日当は宿泊を伴う出張に対して、1日当たり 5,000 円を支給する。
  - 5 その他出張中において用務に支出した通信費、物品輸送費及び雑費等は、その用途を明記した領収書等をもって実費を支給する。
  - 6 参加費等の費用を別途支給されたときは、重複する出張費等は支給し

ない。

(出張費の仮受け)

第8条 出張旅費は出発前に予定計算額の範囲内で仮払い申請書をもって仮受けすることができる。

(出張費の精算)

第9条 出張者は出張終了後速やかに領収書等を添付して、出張旅費を精算するものとする。

2 出張旅費を仮受けした場合は出張終了後速やかに領収書等を添付して、出張旅費を精算するものとする。

## 第4章 退任功労金

(金額の算定)

第10条 退任役員等に対する退任功労金の金額は、次の基準に在任期間の年数に乗じて算出した金額とする。

(1) 常勤理事長・副理事長・常勤理事

年俸を12で除した額×在任年数×係数{A}×係数{B}

係数{A}の計算(1~5年=0.8、6~10年=0.9、10年以上=1.0)

係数{B}の計算(理事長=1.3、副理事長=1.0、常勤理事=0.5)

(2) 非常勤理事長

在任期間1年につき 100,000円(100,000×在任期間)

(3) 非常勤理事、監事、評議員

在任期間1年につき 10,000円(10,000×在任期間)

2 在任期間の計算は、役員等就任日を起算として、1年に満たない端数月は6か月以上のときは切り上げ、6か月未満のときは切り捨てるものとする。

(支給の方法)

第11条 退任功労金は、役員等を退任した時点において、現金又は銀行振込にて支給する。

(控除)

第12条 退任功労金の支給にあたり、法定の源泉税及び退任役員等が法人に

対して負担する債務があるときは、その額を控除する。

(引当金)

第13条 退任功労金の支給額を見積り、退任功労金引当金として計上することができる。

## 第5章 慶 弔

(傷病見舞金)

第14条 役員等が傷病により入院が継続して1週間以上に及んだときは、別表3に定める傷病見舞金を支給する。

(災害見舞金)

第15条 役員等が火災、水害その他不時の災害を受けたときは、その被害に応じて別表3に定める災害見舞金を支給する。

(弔慰金)

第16条 役員等が死亡したときは、別表4の定めにより相続人に弔慰金を支給するほか、葬儀に際して生花及び弔電を供えることができる。

(親族等への香華料)

第17条 役員等の親族等が死亡したときは、別表5に定める香華料を支給するほか、葬儀に際して生花及び弔電を供えることができる。

## 第6章 附 則

(改正)

第18条 この規程を改正または廃止する必要がある場合は、社会福祉法人陽光福社会理事会の議決を経なければならない。

2 この規程の改廃は評議員会の承認を受けて行う。



この規程は平成 29 年 6 月 2 日制定 平成 29 年 6 月 18 日より施行する。

附則

平成 31 年 3 月 9 日 一部改訂 平成 31 年 3 月 9 日より施行する。

附則

令和 2 年 6 月 12 日 一部改訂 令和 2 年 4 月 1 日より施行する。

附則

令和 3 年 1 月 25 日 一部改訂 令和 3 年 4 月 1 日より施行する。

1000	001	1	第1号	第1号
1000	002	2	第2号	第2号
1000	003	3	第3号	第3号
1000	004	4	第4号	第4号
1000	005	5	第5号	第5号
1000	006	6	第6号	第6号
1000	007	7	第7号	第7号
1000	008	8	第8号	第8号
1000	009	9	第9号	第9号
1000	010	10	第10号	第10号
1000	011	11	第11号	第11号
1000	012	12	第12号	第12号
1000	013	13	第13号	第13号
1000	014	14	第14号	第14号
1000	015	15	第15号	第15号
1000	016	16	第16号	第16号
1000	017	17	第17号	第17号
1000	018	18	第18号	第18号
1000	019	19	第19号	第19号
1000	020	20	第20号	第20号

（附則）

(10,000 × 12 × 1)	120,000	第1号	第1号
(10,000 × 12 × 2)	240,000	第2号	第2号
(10,000 × 12 × 3)	360,000	第3号	第3号

別表第 1 (常勤役員等報酬表)

号 俸	支 給 基 準 額
1号俸	年額 2,400,000円
2号俸	年額 3,000,000円
3号俸	年額 3,600,000円
4号俸	年額 4,200,000円
5号俸	年額 4,800,000円
6号俸	年額 5,400,000円
7号俸	年額 6,000,000円
8号俸	年額 6,600,000円
9号俸	年額 7,200,000円
10号俸	年額 7,800,000円
11号俸	年額 8,400,000円
12号俸	年額 9,000,000円
13号俸	年額 9,600,000円
14号俸	年額 10,200,000円
15号俸	年額 10,800,000円
16号俸	年額 11,400,000円
17号俸	年額 12,000,000円
18号俸	年額 12,600,000円
19号俸	年額 13,200,000円
20号俸	年額 14,800,000円

別表第 2 (非常勤理事・監事・評議員報酬)

理事	年間 120,000円 (10,000×12か月)
監事	年間 120,000円 (10,000×12か月)
評議員	年間 120,000円 (10,000×12か月)

別表 3 見舞金

区 分	支給基準額	備考
傷病見舞金	ア. 私傷病見舞金 10,000 円～20,000 円 イ. 業務上の傷病による見舞金 (通勤災害を含む) 30,000 円	
災害見舞金	被害の程度により 10,000 円以上 50,000 円以内	

別表 4 弔慰金

対象者	支給基準額		備考
	在任中	退任後	
理事長(副理事長)	100,000 円	50,000 円	・ 弔電 ・ 生花
常勤理事	70,000 円	30,000 円	
その他の役員	50,000 円	20,000 円	

別表 5 香華料

対象者	支給基準額	備考
配偶者	30,000 円	・ 弔電 ・ 生花
父母	10,000 円	
配偶者の父母、義父母	10,000 円	
子	30,000 円	
祖父母、孫	10,000 円	・ 弔電
兄弟	10,000 円	

